

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 122 号

2022年 9月



第 183 回 デコ平 百貫清水の高原植物観察会 ラウ リサ

私が初めて自然観察ハイキングをしたのは、昨年の 9 月でした。その時、私はグループの散策行動が非常にのんびりで、多くの植物や他の生物について一つ一つ詳しく説明していることにとても驚きました。また、至近距離で自然を撮影ができることに驚き、「これぞアウトドア・ライフであり、ライブ教室だ」と思いました。

時間が経つのは早いもので、もうあれから 1 年近く経ちます。季節は夏ですから、小さな虫がたくさん飛んでいるのは当たり前なのですが、私は気になりません。今まで言っていまらなかったですが、私は昆虫がとても苦手でした。以前はどんな虫にも怯えていたのですが、この 1 年近くの自然体験で、今では虫を見て微笑んだり、その美しさやユニークさに感謝したりできるようになりました。



ブナの美林



ワタスゲ絨毯の上を下る



ナガボノワレモコウ(薬の色がポイント)



キクビアオハムシ

池では、底の砂が泡立っているのを見てとても驚きました。最初は何か不思議なことが起きているのか、それとも何か珍しい生き物が隠れているのかと思いましたが、実は湧き水だと聞いて、自然の神秘に圧倒されずにはられませんでした。

映画でしか見たことのないワタスゲ畑を、初めて本物に触れ、まるで「不思議の国のアリス」の世界に入り込んだような、魔法と至福と幸福だけを感じることができました。

最後になりましたが、ランチタイムもハイキングのハイライトの一つでした。メンバーがリラックスして食事をしたり、甘酒を飲んだり、笑ったりしているのを見ると、すべてが極上の味に感じられます。そして、このような活動に参加できたことをとても嬉しく思います。



百貫清水の湧水



何かを見つけました



千手ブナ



オオバノヨツバムグラ

身体のものさし9 一息四脈（いっそくしみやく）は回復のリズム 土井 昇

今回は呼吸と脈のリズムについて

「一息四脈なら安心して見ていけばよい」と言われる。呼吸1に対して脈が4回の比率であれば身体は健康状態であるとしている。回復へ向かっているか否かも、回復への時間さえも予想することが可能な場合がある。

全体の合宿から帰る電車の中で、テンカンを起こした人がおり、先生はすぐさま操法を施した。丁度先生の隣席におり、患者の姿勢が崩れぬように腰を押さえていた。息と脈が競い合うように速くなって一息一脈。処理後しばらくして落ち着き始めた。脈をとり、呼吸を数えた時に一息三脈になりましたと告げると、先生は「もう少しでしょう」と言い、5分ほどで意識が戻って来た。また、旅行先で嘔吐して歩けなくなった人には、ソファーに横になってもらい、足趾回しをした。2セット目が終わって脈を調べると一息三脈。まもなく正気づいて、もう大丈夫みたいだと立ち上った。



一息四脈

そして、スズメバチに刺された私自身の体験談。村の草刈り中に頭を7、8か所刺された。しぼられるような痛みと疼きがあり、水落ちが下に引っ張られて気分が悪くなった。毒に対して心臓が激しい反応を起こして対応を急いでいた。以前も刺されており、近くにいた人に頼んで自宅に戻った。一息九脈になっていた。7ミリもある円錐形の蜂の針を引き抜いて、ビワの種の焼酎漬けを幹部に当てた。右上腕部の化膿活点（血液浄化の急所）にひどいしこりが現れていたのので、じっと押さえた。病院へ向かったが気分は落ち着いていた。医師も顔を見るなり「大丈夫そうだね、念のため」と薬を処方してくれた。自宅に戻ると、一息五脈になっていて、午後1時から8時まで、休まずに仕事もできた。その日は疲れて眠ってしまい、翌朝あわてて測ってみると一息四脈になっており、胸をなでおろした。

何かが起きると、身体が精一杯反応するが、呼吸と脈がひどく乱れていても治癒の力が勝れば、次第に一息四脈のリズムを取り戻していく。そのプロセスをリアルタイムで測り取る。そこで倒れた人が単なる貧血か急性の疾患（脳や心臓など）であるかを弁別し、病気や異常状態からの回復度合を測る目安ともなる。呼吸と脈の比率はそれほどに精確なのである。

急変の時、経過のすぐれない人、老衰気味の人など症状を診ることと併せて、静かにそのリズムを診ることが大切になってくる。

※二息九脈が健康とする臨床家もおり、変動する状態からその辺りのリズムに戻れば状態としてのよいリズムを取り戻したと考えてよいでしょう。

5月15日 野手上山観察会

観察ポイントに昆虫の揺籃（ようらん）がありました。山でよく見かけます。「落とし文」という古語とも重なって興味を惹かれます。新緑の森でさっそく見つけたオトシブミ、「産卵するために葉の巻物」を作るゾウムシ科の甲虫の総称、それぞれの食草をクルクル巻いて中に産卵、孵化した幼虫はその葉を食べサナギとなり、成虫となる。なんと合理的！しかもメスは「葉の上を歩いて大きさを測定し、アゴで切れ込みをいれてしっかり巻く」。ほんとですか！私は舌を巻く。すごいなあ、お母さんって。枝に下がるもの、地面に落とされているもの、何種類かありました。特に地面に転がる茶筒型のが可愛らしく、沢山あったので二個だけそっと頂いてきました。ワタシガソダテテミヨウ。守さん育て方は？「あ、乾燥させなければそれでいいよ、霧吹きで時々水かけて」初めて虫のお母さんになるというのに、そんなにいいのか？疑念の目を向けると、『オトシブミハンドブック』を貸してくれました。「そこに観察の仕方あるから〜」。カブトムシの飼育箱に湿らせた腐葉土を入れ、二個の配置に悩み、結局ご近所風に数センチ並べて置きました。直射日光の当たらない室内に置き、時々霧吹きでシュッ、外で日光浴もさせました。森の中ってそんな感じでしょう？一週間、二週間、だんだん茶筒が黒ずんできます。三週間、、茶筒は干からびて・少し不安になってきました。



6月12日頃？ フライング

我慢できず、ちょっとだけネと中を覗くと・・・いた〜！！輝くような黄色の、5〜6ミリの、覗き見の後ろめたさとうれしさと冷静さを失い、あわてて巻き戻しちゃったけど、あれは蛹だったのか、幼虫だったのか。日付もうろ覚え、たぶん四週間めの12日頃でした。

6月21日 7時37分 オトシブミと目があった

拾ってきて六週間・・・確かに黄色いのをみたけど、その後変化なし。もしかしてもう出てきたの？どこかに行ってしまったの？



目があった



モソモソ、出てきた

またもや我慢できず、葉をそっ〜と開く。ちょうどその時、小さい生き物が這い出してきました。長いひげ、半透明の黄金色の体、成虫になってた！つらな黒い目が私を見ました。オカアサン？もう、その感激〜と言ったら、森から受け取った命、育てていたのね。すぐに守さんに電話、ビデオ画像を送り、「ヒゲナガオトシブミ」とわかりました。バンザイ！

その後 ちょっと残念な・・・

「隙間ふさいでね、飼育箱に空気を通す新聞紙を挟んで」と指示をもらったのに、窒息するかもとか気の毒で閉め方甘くした。翌朝、わが子の姿がありませんでした。きっと庭木のどこかにいると信じます。そして、もう一個の方を、翌日、守さんに開けてもらいましたが、中に生き物はいませんでした。卵が幼虫になる確率がそもそも100%ではないとか、出会えたことに感謝、今度飼育するなら経験を生かし生まれた森に帰してあげようと思います。楽しい一か月でした。



新聞紙ほんとに空気通すの？

飼育の参考になりそうな本

- 『昆虫の世界へようこそ』 ちくま新書
- 『デジカメ自然観察のすすめ』 岩波ジュニア新書カラー版
- 『オトシブミ ハンドブック』 文一総合出版

高山の原生林を守る会との出会い

子育てと病院で看護助手の仕事を忙しく働いた50代の頃である。入院病棟の各部屋を掃除していた時に山登りの話をしてくれた方がいて、山で咲いている花や秋の紅葉のすばらしさを教えてもらった。ベット周りの柵やテレビ台の拭き掃除で手を動かしながら聞き入った。若い頃に、初めて磐梯山に登ったことがあったが、大変疲れて、もう二度と登りたくないと思っていたが！

その方が退院し、しばらくして月山に誘われ、登山の準備もなく普段着にスニーカー、手持ちのリュックサックと軽装で登る。リフトを下りてしばらく登りが続き雪渓が出てきた。とんだところに来てしまったと思ったが、疲れは無く、意外と楽しいなと思い、すがすがしい気分。頂上までは登らず少し休み下った。途中でピンクの大きな花シラネアオイに出会い、感動した。こんな綺麗な花が咲くんだと、更に山への関心が高まる。その後、登山仲間を3人紹介されて、週1回ペースで誘われるまま登るようになる。皆さん、一眼レフカメラでブナの木、花々、景色などを撮るので私は少し休めた。何回かご一緒するうちに私もカメラが欲しくなった。



シラネアオイ

その頃、手軽なデジカメが出てきた頃だったと思うが、私はすぐ小さなコンパクトカメラを買って出かけた。私は後からついていき、前方では花を探してパチリ。私も花の名前を聞きパチリ。次から次と色々な花が咲いていて忙しい。私は少し離れたので小走りで追いつくという山登りだった。途中で花の名前を聞き覚えるが、家に帰ると忘れてしまっているので山と溪谷社の「山に咲く花」と「野に咲く花」を買う。毎日寝る前に本を開いて眺めることが日課になり、愛読書に？花の写真と名前だけです！今までの山仲間の他に、仕事仲間も山登りをしていると聞き、そのグループのお誘いで二ッ箭に登った。そこで近所に住むMさんに出会う。Mさんは、あなたが山登りするのでしたら、花のすばらしい飯豊山縦走を一緒にしましょうと誘ってくれた。そして、私の登山仲間とMさんとで夏は飯豊テント縦走、秋には大朝日・小朝日山小屋縦走に出かけました。私は連休をもらうのが大変だった。とにかく縦走が好きなグループだった。



レンゲショウマ

話は戻るが、そのMさんは、高山の原生林を守る会の創立からの会員で以前にSさん、Oさんと山登りをしていたといい、いろいろ写真を見せてくれた。その後、高山の原生林を守る会が出版した「福島花紀行・奥羽山脈」に出会った。その本の中の権太倉山のレンゲショウマに衝撃を受け、ますます花の虜になり、三冊目の愛読書に！しばらくしてMさんから写真展のお誘いが来る。高山の原生林を守る会20周年記念の写真展だった。山野草の花、ブナの木等の写真の他に木の実で作った昆虫などが展示してあり、興味深かった。この時が高山の原生林を守る会との出会いとなる。そして、入会して観察会に参加するようになる。勿論、花、木、昆虫の観察も興味深かった。登山仲間と登山しながら高山の会の観察会に参加し続け高山の原生林を守る会30周年も過ぎてからもう5年目となり、私は入会して15年となる。



木の実細工(鎌田さん制作)

年を経て昔の山の思い出のその明瞭さは薄れてきたが、当時の山日記に綴られたメモを繰ったり、またアルバムの写真の順番を追ったりして、往時の山行の途切れ途切れの記憶を繋げて巡らせると、そこでの懐かしき時代の出来事が甦ってくる。

もう五十年以上前の十月のある日、同級生の T が「オイ長岡、尾瀬に連れて行け」といきなり言ってきた。その（誘いの）言葉に私は何も考えず「アアいいよ」と即答した。大阪出身の T は試験休みにいつもは東海道線で帰省するのだが、今回は日本海廻りで帰ろうと考えたらしい。そしてその途次に尾瀬へと思いつき丁度そこにいた私に声をかけたようだ。T が「ところでお前、尾瀬には行ったことあるのか」と問うてきたので「ウン何回かある」と答えると、なにを用意すればいいのかと聞いてきた。登山経験のない T に必要品のメモを渡して「なければアメ横でも買えるけど、誰かに借りるよ」と言ってから、靴だけは履き慣れた靴を履いて来いと指示をした。そして 2 日後 T はキャラバンシューズを履き、リュックを背負い意気揚々と上野駅に現れた。荷物チェックをすると一応揃っている。ジャンパーがあればセーターはいらないだろうと、主張していたが持ってきたようだ。まずは列車に乗る前に食料の買い出しにアメ横へ。T は遠足にでも行くようなつもりか、非常食なんて少し大げさじゃないのかと言った。東北で一番高い山に登るのだと説明しても、彼はどうも「♪夏が来れば思い出す〜♪」という抒情的な尾瀬の世界を想像しているらしい。買い物を済ませ夕食後いよいよ駅へ。中央改札口上にぶら下がる上野駅名物の列車案内板で、最終列車の発車時刻を確認して上越線のホームに進んだ。これが三度目の尾瀬行き前二回は山には登っていない。尾瀬沼と尾瀬ヶ原だけでも T は充分感動すると思うが、今回燧ヶ岳と至仏山の二つの山に登りたい自分に、T を付き合わせてしまおうというのが私の魂胆だ。発車した列車はノンビリ進み、沼田駅に到着したのは午前 3 時頃。バスの発車時刻まではまだある。駅の待合室のベンチに横になり待つことにした。やがて夜が明け始発のバスに乗り込むと、夜行列車の疲れと車内の心地よい暖かさや揺れとで、終点の大清水まで二人ともぐっすり眠り込んでしまった。初日の行程は大清水から歩き始め、三平峠、尾瀬沼、燧ヶ岳、下田代十字路まで、そして二日目は尾瀬ヶ原を縦断し山の鼻、そこから至仏山を目指すことになっている。

ではここから順を追って尾瀬での記憶を辿ろう。バスを下車して歩き始めた大清水の天気は曇天。ここから三平峠を越えて尾瀬沼へ。そして雨の燧ヶ岳を登り下田代十字路まで頑張ったはずだが、燧ヶ岳頂上以外の記憶が全くない。雨と汗で濡れネズミとなって燧ヶ岳の山頂にやっとたどり着いたことは憶えていて、頂上からの景色は全て黒い雲の中、昼間だというのにやけに暗かったことだけが印象に残っている。そんな所に長居は無用。セーターに雨具の合羽を重ねて頂上から逃げるようにして下り、なんとか宿泊地下田代十字路にたどり着いた。そこで何軒かある山小屋の中から T が寒さに震えながら、一番手前の小屋を指差し「おい、ここにしよう」と言った。異論はない一刻も早く温かい風呂（温泉？）に浸かりたかった。その晩 T から「明日の至仏山はやめよう」との提案があり、それには自分も全く同感異論はなかった。

翌朝はカラリと晴れて昨日の雨が嘘のような快晴の秋空。尾瀬ヶ原の紅葉した湿原に渡された木道の先には優美な至仏山が聳え立っていた。その姿を仰いだ T が至仏山の頂上に立ってみたいと言う。それはわが思いも一緒よし登ろうと即座に答えた。そして至仏山の頂、そこからは今朝歩いてきた尾瀬ヶ原、昨日登った燧ヶ岳、そして右下にはこれから下る鳩待峠が間近に見えていて、這松と這松の間に細い隙間がけもの道のように続いている。そこを辿ればすぐに鳩待峠に辿り着けそうに見える。T がここを真直ぐ下った方が近いと言った。自分にもなんだかそう思える。天気は良いし視界も良好道に迷うことはなさそうだ。登山道は峠とは反対方向に向かっている。そこで自分も誘惑に負けその細い隙間を下ってしまった。その結果は惨憺たるもので、這松の間を巡り巡って一時間ほど彷徨いやっと辿り着いた所は先刻放棄した登山道で頂上ですぐそばに見えた。そんなこんなでやっと鳩待峠へ到着。ここからの予定はバス停のある戸倉までの歩きだが（当時バスは鳩待峠までは来ていなかった）、戸倉からの沼田駅行の最終バスには到底間に合わない。今夜は戸倉泊りを覚悟した時、鳩待山荘の人が「今から荷揚げのトラックが戸倉まで帰るから乗せてもらったらどうだ？頼んでやるよ」と言ってくれた。それは有難い沼田駅行の最終バスに間に合う。早速乗せてもらうことにした。それから小屋番のアドバイスで運転手に煙草をワンカートン買って渡してから、トラックの荷台に乗り込み戸倉のバス停まで送ってもらいバスに間に合うことができた。沼田駅からの二人は上越線の上りと下りに別れて乗りなんとか秋の尾瀬の山旅を終えることができた。



燧ヶ岳頂上



至仏山

東北ブナ紀行（82）

奥田 博

蔵王連峰の中間部に位置する名号峰、その存在を知る人は少ない。さらに栗駒山の3 km南にそびえる大地森はさらに認知度は低い。二つの無名峰にもブナ林が広がっている。

129) 名号峰 1490m

名号峰は中央蔵王のど真ん中、盟主熊野岳の東にある小山といった印象名号峰。コースは峩々温泉（青根温泉）から、熊野岳から、南雁戸山からと3方向が考えられるが、ブナに出会えるのは峩々温泉からが手っ取り早い。

登山口の峩々温泉から歩き出すが、いきなり急坂が始まる。主尾根にたどり着くまでは急坂に耐える。主尾根からは穏やかな登りとなり、ブナが点在はじめる。時折、見事なブナも現れ楽しみながら登る。ブナ林は、突然途切れてダケカンバ林に変る。これはこれで素晴らしい森をなしている。森は次第に灌木に代わり、久し振りに歩くと藪が多くなったように感じる。そんなに歩かれていないのかも知れないので、春か秋がお薦めか。やがて展望の名号峰へと到着する。

コースタイム：峩々温泉（1時間）主尾根（2時間20分）名号峰山頂（2時間30分）峩々温泉



130) 大地森 1155m

大地森は栗駒山の南山麓、大湿原の世界谷地から眺めると、栗駒山の前衛峰として存在感がある。山頂に登る登山道はなく、中腹を巻く登山道付近から多種多様なブナの姿を眺めることになる。

40年以上前の昔話。耕英地区から真冬に深いラッセルで大地森を目指した。参加者は関東・宮城・福島から20人ほどだった。しかし長い世界谷地周辺の平らなラッセルは、大人数でも登りきることが出来なかった厳しい山だった。

世界谷地への入口から歩き出す。穏やかな道が続くが、奥の第一世界谷地の入口を越えると、道はアップダウンを繰り返すようになる。



この辺にも太いブナや奇形ブナが現れるが、総じて散発的だ。本格的なブナ林は、湯浜温泉への分岐（テーブルとベンチ有）から大地森の山懐に取付いてからだ。山を回り込む個所は見事なブナ林が続くが、お気に入りブナに出会ったタイミングで戻った。

コースタイム：登山口（1時間）湯浜分岐（2時間）最高到達点（2時間）登山口



ヒツバカエデ (*Acer distylum* ムクロジ科カエデ属)

吾妻・安達太良連峰のブナ林の溪流周辺や残雪がたまるやや湿った林内に植生する落葉広葉樹。日本固有種。雄性同株で同じ株に両性花と雌しべを欠く雄花を付ける。これはハウチワカエデ、オガラバナと同様である。カエデでは雌雄同株からミネカエデ、ミツデカエデの様に雌雄異株の方向へ進化しているとされているので、ヒツバカエデはカエデの始原的な性質を保有していると言えるかもしれない。

葉は対生。葉形は大型の倒卵形で葉の周辺は滑らかな波状の鋸歯で縁どられる。先端は鋭くとがる。緑の葉身に中肋と平行に走る黄緑の側脈がシンメトリックな葉形を強調している。葉の印象はオオバボダイジュに似るがこちらの葉形は非対称である。展葉間もない幼葉は淡黄色と淡緑色が混在したモザイク模様を呈し、密生する毛じに照り返す光が七色に煌めき雅。また秋の鮮黄色に輝く黄葉も秀逸。

花は頂性。短花枝が発芽後 2 枚の葉が展葉し、その間から総状花序を直立させる。他に総状花序が直立するカエデにミネカエデ、オガラバナがある。花は 5 数性を示し、ガクと花弁は 5 個である。しかし、雄しべは 8 個である。雄しべの花糸は赤色、葯は淡黄緑色である。雄花は雌しべが退化している。雌しべは両端がこぶ状に盛り上がったカニの体の様な形の子房の鞍部から 2 本の花柱が伸び、外側に湾曲する。柱頭は赤味を帯びる。子房のこぶの外側には赤褐色の軟毛が密生する。

私の山の花の撮影はカエデから始まった。ハウチワカエデやイタヤカエデ等の花が目を引きカエデから、標高を上下しながら花を求め、吾妻・安達太良でみられるカエデのほとんどの花の姿を収めることができた。しかし、この山域に多く植生するにもかかわらずヒツバカエデの花にはなかなか巡り合えずにいた。1 度だけ急斜面で花をつけた樹を見つけたが、花姿は頭上高くにあり、撮影を断念した。以来、月日を重ね、ほぼ諦めかけていたが、早春の花を求めて訪れたブナ林で沢山の花を着けたヒツバカエデの群落に遭遇した。長年追い求めてきた花ははあまりにもあっけなく、不意を打つように現れた。



ミヤマシャジン (*Adenophora nikoensis* var. *nikoensis* f. *nipponica* キキョウ科 ツリガネニンジン属)

吾妻・安達太良連峰の砂礫地に植生する多年草。日本固有種。吾妻・安達太良連峰での植生地は限られている。手元の解説書では南アルプスに植生する 6 倍体の個体をミヤマシャジンとし、2 倍体の個体はヒメシャジン (*Adenophora nikoensis*) の変種との記載がある。新牧野日本植物図鑑では倍数性による区別性の記載はない。南限は南アルプスとされている。

葉は互生。葉身は長楕円形、中肋から走る数本の側脈が目立つ。葉縁は鋭鋸歯があり先端は尖る。葉柄は欠くか極めて短い。葉色は緑。葉幅は株により個体差がある。

花は頂生。直立した茎の先端に総状花序を形成する。花茎から分岐した花柄の先に小花を咲かせる。花序の下部では互生して 2 輪が着花することがある。小花は合弁花である。ガクは 5 片、花冠の先は 5 裂する。花冠の色は青紫。雄しべは 5 個で白い平板上の花糸の先に短冊状の長い肌色の葯が着生し、その先は尖って内側にくびれる。雄性先熟で開花すると花冠中央部から雌しべはこん棒状に花柱を伸ばし、その周りの雄しべが開葯したのちに雌しべ先端の柱頭が 3 裂し、雌性期を迎える。花柱は紫、柱頭は白色である。ヒメシャジンとはガクの形態のみで区別される。ミヤマシャジンのガクは幅が広く全縁で鋸歯は無い。ヒメシャジンはガクが細く茶褐色の鋸歯が見られる。

ミヤマキンバイなどの様に周辺の山では頻繁に観察されるにもかかわらず吾妻・安達太良連峰では特定の場所でしか観察できない植物がある。ミヤマシャジンも同様である。北限、南限でもなく分布の連続性がぽっかり空いている印象なのだ。福島県や周辺の山ではヒメシャジンよりミヤマシャジンの方が多いことに最近気づいた。母種より変種の方が多いという事がありうるのだろうか。学名も度々変わっているようで私にとっては謎の多い花である。



第184回自然観察会案内：高山（幕川温泉からスカイライン）ブナ林の紅葉観察会

日時：2022年9月25日（日）8：00～16：00

集合場所 四季の里正面入り口（あづま橋側）

集合時間 8:00 参加定員 20名

内容 幕川温泉からスカイラインに至るブナ林を散策し、秋の花々と高原の広葉樹類の紅葉を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)、申し込み：9月23日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

西吾妻登山道誘導ロープ取り外しボランティア(一般公募とNF 米沢との共同で実施します)

1. 実施日：10月15日(土)6:30～17:00(雨天時10月16日に順延)
2. 定員 10名 取り下げ作業は時間がかからないので一般公募も含め、先着10名までとします。
3. 内容 グランデコススキー場ゴンドラ終点から西大巔に登り、西大巔山頂から西吾妻小屋までのロープ取り外し作業を行います。ゴンドラ代は全額参加者負担とします。
4. 集合場所・時間：四季の里正面入り口駐車場 6:30 現地(グラン デコススキー場駐車場)7:30
5. 申し込み：10月13日(木)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメール(全員返信モード)にてお願いします。(電話申込は午後7時～9時でお願いします)

9月22日に専門家による西大巔崩壊斜面の現地調査が実施されます。応急策を検討後、10月中旬に試行的な保全作業を実施します。保全作業ではボランティア公募を予定しています。詳細は佐藤までお問い合わせください。

西吾妻登山道保全ボランティア作業に係るロープウエイ・リフト代を支援していただける方を求めています。ご協力いただける方は下記に振込をお願いします(通信欄に「ボランティア資金」と記載をお願いします)

郵便振替：02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

第185回自然観察会案内：布引山・里山自然林陽だまり観察会

日時：2022年11月23日（水・祝）8：30～12：00，総会 13:00～16:00

集合場所 立子山少年自然の家駐車場

集合時間 8:30 参加定員 20名(総会は制限ありません、多くの方々の参加をお願いします)

内容 古くから川俣の人々の暮らしとともに歴史を重ねてきた「鳴神堂」を散策します。午後からは総会です。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)、申し込み：11月21日(月)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

★書籍紹介 スマイルに魅せられ、毎年、春めいてくると、いそいそとスマイル探しに励んでいる会員の皆様に朗報です。今年4月に福島県内に植生するスマイルを網羅した「ふくしまスマイル図鑑」(写真・文 山下俊之・山下由美・遠藤雄一 歴史春秋社 定価1800円)が出版されました。

本書では福島県で咲くスマイル60種(交雑種も含む)が掲載され、美しい写真とともに「それぞれの種の国内分布、生育環境、特徴、似た仲間との見分け方などについて書き添え」られています。山下ご夫妻は野山の花々をインターネットでも紹介されています(花ママと花パパの野の花・山の花 番外編その2 福島県とその周辺の花めぐり <http://hanapapa.world.coocan.jp/>)。

この図鑑をもとに春のスマイル探索作戦を立てられてはいかがでしょうか。



振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第122号 2022年9月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP:<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田